



従業員とその家族の集合写真

ブロー成形で、複雑な形状の機械部品に命を吹き込む

マルイチエクソム 株式会社

事業内容と沿革

工業用部品専門のブロー成形メーカーに転身

マルイチエクソムは昭和45年創業の樹脂製品のブロー成形専門メーカー。ブロー成形とは、樹脂に空気を吹き込んで多様な形に仕上げるための技術で、一般的にはシャンプーや醤油などの容器を作る際に用いられる。だが、同社は容器類を一切製造せず、自動車や家電製品などの機械部品の製造に特化している。昭和45年に「丸一化成工業」として守口市で創業。当初は家族経営で、一般容器類も含め、やってくる仕事はなんでも引き受けていたという。平成元年に創業者である父親から代替わりし、自動車用部品の生産に着手した。社員が増え設備投資が必要になってくると、「安定した経営が求められるようになってきた」と新谷幹夫社長は当時を振り返る。その一方で、かつて製造を引き受けていた一般容器の仕事は水商売のように感じたという。一気に在庫がはけることもあれば、在庫がなくなるまで仕事が舞い込んでこないこともある。売り上げの変動をなるべく避け、装置の稼働率を安定させないといけない。計画的に生産できる仕事を追い求めた結果、機械部品のブロー成形専門メーカーとしての道も開けた。平成25年には本社工場を増築し、生産体制を一新。新技術の導入や人材育成など、新たな試みをスタートさせている。

強み

多岐にわたる強みを生かし事業領域を拡大

製造しているブロー成形品の割合は、自動車用部品がおおよそ半分を占める。現在もっとも力を入れているという介護用品部材の成形が30%にのぼり、家電用部品、建設・農業機械用部品がそれぞれ10%と後に続く。一時は自動車用部品が90%を占めていたが、リーマンショックや東日本大震災の影響を大きく受けたという。多様な商品の取り扱いを目指し、介護用品、建設機械など幅を広げ、製造量を伸ばしている。強みは多岐にわたる。24時間稼働しているのも特徴の1つ。「大阪のブロー成形メーカーで24時間体制で動いているのはうちだけだと思う」と新谷社長はいう。ブロー成形で難しいとされる長尺物の製造を得意としている。長尺物部品は、エアコンに取り付けられる蛇腹ホースに代表される。専用の機械を2台ほど保有しており、長さ1000mm以上にも対応できる。また、ブロー成形品の製造だけで終わらないのも強み。成型した部品の組み立て作業も行っている。「ブロー成形品は空気で膨らませるため容積が増し場所をとる。ばらばらのままだと輸送効率が悪い。ある程度まで部品を組み立てて出荷すれば、輸送コストを削減できる」と工夫を怠らない。



ブロー成形品の製造工程



自動車用ブロー成形部品



製造ラインの様子



本社工場の外観

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

カドマイスターの取り組み

人材育成が会社の成長を支える

「ブロー成形は人手と手間のいる仕事。機械から出てきておしまいでなく、たくさんの人の手を経て完成する」と新谷社長はいう。そのため人材の確保と育成は会社にとって最優先の課題となっている。熟練した技術力も求められる。平成18年から現場作業員の増員を本格的に進めてきた。製造ラインで働く作業員の平均年齢は20代と若い。高校を卒業し入社した作業員のキャリアが、ようやく10年目を迎えた。技術的には成熟してきたが、人材育成のルールを整えブロー成形の技術をどう伝えていくかが課題として残っている。今後も試行錯誤を重ね、育成に取り組んでいく。また、職人としての技術力だけでなく、社外に目を向ける必要性も感じている。「リーマンショック後、自社で営業を回らねばならないという危機感を覚えた」という。現在は専務と入社4年目の社員が営業を担う。展示会にも年2、3回出展し、現場の作業員も一丸となってブロー成形品や技術力を広くアピールしている。

自動車や家電など工業部品に特化したブロー成形メーカー



代表取締役
にいや
新谷 幹夫 さん

創業以来ブロー成形一筋で、あらゆる樹脂成形品に命を吹き込んできました。現在は自動車や家電向けの、複雑な形状のタンクやダクトを製造しています。また、最近では新たな業界への進出にも力を入れており、介護用品や建設・農業機械向け部品製造にも事業を拡大しているところです。平成18年にマルイチエクソムに社名を改め、現在地の大阪府門真市に本社工場を建設しました。平成25年には増築し、新たなスタートを切りました。人間力あふれるクラフトマン精神を胸に、社員一丸となって、会社のさらなる成長に向けて挑戦していきます。

主な事業内容

ブロー成形によるプラスチック製品製造業

主な取引先(納入先)

タイガースポリマー(株)、キョーラク(株)、(株)ベステックスキョーエイなど

【住 所】〒571-0037 大阪府門真市神島380
【T E L】072-884-3500
【F A X】072-884-5070
【創 業】昭和45年 【設 立】平成9年5月
【資本金】2,000万円 【従業員】50名

今後の展開

新素材の導入と将来的には海外拠点の設立も検討

大阪府門真市に本社工場を建設して平成27年で10年目を迎える。平成25年に工場を増築し生産機能の増設を図った。「当面の目標は拡大した事業を軌道にのせ安定させること。その後、改めて事業拡大を検討していきたい」と新谷社長は慎重な姿勢をみせる。現在は、熱可塑性樹脂の1つであるABS樹脂という素材の導入に着手している。「ABS樹脂はブロー成形ではあまり使われない素材。試作開発を始めているが、これが本格的に出荷できるようになれば独自色の強い商品としてアピールできる」と意気込む。すでに一部受注も来ており、今後の動きが期待される。また、海外拠点の設立の構想もあるという。毎年、中国から研修生を受け入れていることから以前は中国への進出を検討していたこともあったそうだが、本社工場の基盤安定化と中国情勢が不透明なことで現状では具体的なめどは立っていない。しかし、「アジアに目を向けたダイナミックな仕事をいつかしてみたい」と夢を膨らませる。

<http://www.maruitixsomm.co.jp>

